

南房大海港出船

撮影●鈴木良和

黒川 魚 誌

季節の魚とダブルで楽しむ南房クロムツリレー船



▲クロムツはあたりが暗い早朝が勝負時

●クロムツは30センチ以上の良型主体

▼クロムツの釣り場は太海沖の水深100～160メートル



●底から10～15メートルを誘い上げる



●サビキ仕掛けを絡ませないように、焦らずていねいに取り込もう



●食いが立てば多点掛けも



▲船宿特製フラッシュャーサビキは7本ハリ、オモリは150号



●クロムツは煮つけや炙り刺しが絶品



▶船長に許可を得てヤリイカのポイントでオニカサゴを狙った人が良型ゲット



●当日の後半はラストスパートのヤリイカに競進、胴長30～40センチ級が上がった

一度の釣行で2種類の釣り物を楽しめるリレー釣りは各地で人気を集める乗合メニュー。

ここ南房大海港の聡丸では、早朝の2～3時間ほどはフラッシュャーサビキで主にクロムツ(ムツ)を狙い、その後は季節ごとに模様がよい魚やイカも釣らせてくれるリレースタイルで出船。クロムツは30～35センチ級主体にいい日は20尾以上釣れている。後半のターゲットは目下はアマダイやオニカサゴ。6月からはカサゴ主体にハタ類やキントキなどを狙う根魚五目がリレー

のメニューに加わる予定だ。(詳細は52ページ参照)



●南房大海港・聡丸 松下 聡船長